

埼玉県敵討課 [さいはまけん かたきうちか]

平野 正喜 [ひらの まさき]

ver.3.1 : 2018/09/06

あらすじ

今日から開設された埼玉県敵討課では職員の小林麻雛が訪れた曾我悟朗に対している。敵討の申込書を書き始めた悟朗は、肝心の父の敵の名前が思い出せなくて愕然とする。歌舞伎研修生だった悟朗は、大事なことから忘れていくという病にかかっていた。そこに敵討課長の工藤助常が現れ、悟朗が思い出すまでつきあおうと言い出す。悟朗は父の名も、父が騙された経緯の一部も忘れてしまっている。焦る悟朗に麻雛は、まだ申込受付しかできないことを伝え、工藤は歌舞伎の敵討ち演目の幕切れが「まず今日はこれぎり」と途中で終わることを実演して諭す。吾朗は打ちひしがれて出ていくが、麻雛は一連の言動から工藤が吾朗の父と自分の父を自殺に追いやった敵であることに気付く。実は工藤と吾朗の父、麻雛の父は「大事なことから忘れさせる」薬に関わっており、敵討課は増税策とこの薬の治験のためのもので最初の対象が吾朗だった。麻雛は工藤への敵討に挑むが薬を浴びてしまう。しかし、麻雛が別れ際に与えたヒントにより全てを悟った悟朗が戻り、工藤を倒して本会を遂げる。